

令和3年8月5日
302 議室

令和3年第15回
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和3年第15回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和3年8月5日(木)

開会 午後 3時

閉会 午後 3時32分

2 場 所 302会議室

3 出席者

教育長 小町 邦彦

教育委員 伊藤 憲春 嶋田 敦子

小林 章子 石本 一弘

署名委員 石本 一弘

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 大野 茂 教育総務課長 小林 直弘

指導課長 前田 元 生涯学習推進センター長 岡部 浩昭

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 笹原 康司 柏崎 彩花

案 件

1 議案

- (1) 議案第14号 立川市民科の教育課程特例校申請について

2 協議

- (1) 立川市立中学校使用教科用図書（歴史的分野）の採択について

3 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

4 その他

令和3年第15回立川市教育委員会定例会議事日程

令和3年8月5日
302会議室

1 議案

(1) 議案第14号 立川市民科の教育課程特例校申請について

2 協議

(1) 立川市立中学校使用教科用図書（歴史的分野）の採択について

3 報告

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

4 その他

◎開会の辞

○小町教育長 ただ今から、令和3年第15回立川市教育委員会定例会を開催いたします。

署名委員に石本委員、お願いします。

○石本委員 はい。かしこまりました。

○小町教育長 よろしく願いいたします。

本日は議案1件、協議1件、報告1件でございます。その他は、議事進行過程で確認いたします。

次に、出席者の確認を行います。

大野教育部長、お願いします。

○大野教育部長 本日、第15回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、指導課長、生涯学習推進センター長でございます。

◎議 案

(1) 議案第14号 立川市民科の教育課程特例校申請について

○小町教育長 それでは、1議案(1)議案第14号立川市民科の教育課程特例校申請についてを議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 それでは、ご説明いたします。

令和3年7月29日に第14回教育委員会定例会においてご協議いただきました教育課程特例校申請に必要な立川市民科の内容につきまして、申請に向けご承認いただきたく、議案としてご提案するものでございます。

前回の協議を踏まえ、本日、資料をお配りさせていただいているところでございます。よろしくご審議の上、ご承認賜りますよう、お願い申し上げます。説明は、以上です。

○小町教育長 説明、ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえご質疑をお願いいたします。石本委員。

○石本委員 何度も立川市民科については時間をとっていただいて、本当にありがとうございました。教育課程の概要の中にもありますが、まさに探求的な学習で新たな未来を開いていく力を子どもたちに身に付けさせていく。本当に今の子どもたちが、まさに21世紀の前半から後半にかけて、本当にグローバルな立場で新しい時代をけん引していく若者になっていくんだろうと思うので、そういう素晴らしい人材をたくさん育てていただければありがたいなというふうに思っております。ありがとうございました。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。では、私からもちょっとお話しさせていただきます。

立川市民科に関しましては、これまでも何回も皆さんにご協議いただいて内容を固めてま

いりました。また、検討委員会、学識の先生を含めまして、現場の校長先生にも入っていただいて、内容を精査してまいったところでございます。今後は、文科省に申請をいたしまして、その中でやりとりがまたあろうかなというふうに思いますので、その都度、教育委員会にお諮りして、最終的には取りまとめていきたいと思っております。12月ごろに文科省の方向性としては認可が下りるということでございますので、そういったスケジュール感で今後とも取り上げてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。

それでは、お諮りいたします。

議案第14号立川市民科の教育課程特例校申請については、提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第14号立川市民科の教育課程特例校申請については承認されました。

◎協 議

(1) 立川市立中学校使用教科用図書（歴史的分野）の採択について

○小町教育長 続きまして、2協議の(1)立川市立中学校使用教科用図書（歴史的分野）の採択についてを議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 それでは、ご説明いたします。

前回、7月29日の第14回教育委員会定例会において、選定検討委員会のご報告をさせていただいたところでございます。本日は、委員の方々で調査いただいた事柄をもとにした社会科（歴史的分野）の教科用図書についてご協議いただければと存じます。

それでは、前回、ご報告させていただいた資料等および各委員の皆さまで調査、研究していただいた結果と、またお配りさせていただいておりますアンケート等を参考にさせていただいた上で、活発にご協議いただければと思います。

本日のご協議を踏まえ、次回に採択をお願いする予定です。どうぞよろしくをお願いいたします。説明は以上です。

○小町教育長 説明、ありがとうございました。

これより質疑に移ります。

説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

石本委員。

○石本委員 質問というよりは私の感想という形で申し述べさせていただこうと思っております。最初に、自由社の教科書を、東京書籍と見比べながら、歴史をひもとくような思いで久しぶり

に社会の教科書を見ました。自由社については、地図などカラーもすごく鮮明で、活字も大きくて読みやすいのかなと、私が目が悪いものですから色が鮮やかなほうがいいんですが、反面、子どもたちの中にはいろんな特性のお子さんがいて、刺激によって授業に集中できないお子さんがいるので、そういう点はどうかのかなとちょっと気になったんですが、大人が読むにはとても流れを追えるというんですか、ストーリー性というんでしょうか、関係性というんですか、そういうのは大人が改めて歴史をひもとくにはいいんじゃないかなという、そういう第一印象がありました。

ただ、この選定検討委員の先生方のまとめたものも見させていただいてなるほどと思ったんですが、例えばちょっと中学生には難しい語彙とか、それから、ひよっとしたら捉え方に食い違いが出てくるとか、子どもによって全く逆の感想を持つようなことはないのかなというの、私もちょっと気になったところです。

一緒に東京書籍のほうも見させていただいたんですが、写真がとても鮮明で大きめで、どのページも年表が、自由社のほうでも年表は確かに付いていますが、どのページをめくっても、どこを勉強しても、この時代のこのことを今勉強していると確かによく分かって、中学生が学ぶのにはこちらのほうがいいのかという印象を受けました。

私がそういうふうにしたという事なんですが、ただ、教科書選定の検討委員会の先生方は本当に高い識見と豊かな経験をお持ちの方の中から恐らく選抜されていて、検討委員会が行われたものと思っていて、その報告を丁寧に見ますと、その2社の違いというのが出てくるのかなという、そういう印象を受けたということです。以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 検討委員会の方々の意見を参考にして、私も両方をよく見させていただきました。自由社のほうは確かに、「もっと知りたい」というコーナーがとても多くて、その部分についての読み応えはとてもあり面白いなというふうに感じたんですけども、「もっと知りたい」のコーナーと、それから本文のほうと、書体がちょっと違っておまして、本文のほうはやはり全体的に明朝ですか、全体的にとっても黒く見えるんです。それに比べて東京書籍のほうは、全体的な薄さ、とてもバランスが取れていて見やすい感じがいたしました。

両社とも年表は下に付いておまして、今勉強しているところはどの時代のことかということも分かりやすいし、それぞれ工夫を凝らしているというように感じました。ただ、全体的に東京書籍のほうが目付け所が今までの形と合っているのかなというような気がいたします。以上でございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。

嶋田委員。

○嶋田委員 ご説明ありがとうございます。私も検討委員会の資料をもとに見させていただきました。確かに自由社のほうは字がくっきりして見やすいということ。それから、「もっと知りたい」とか「人物クローズアップ」といったコラムは大変興味深いエピソードを使っ

ていて、印象に残る文章で読みやすくまとめてあるなというふうに思いました。ただ、一方、気になる部分も若干は所々にあるかなといったところはありません。

あと、調べ学習ですとか、考えるページ、対話などのページが、もう既に答えが用意してあるような形が多くて、子どもたちが自主的に考えたり、調べたり、話し合ったりというところに持っていくのには先生方が少し工夫をされる必要があるのかなというふうに思いました。

それから、東京書籍のほうですけれども、昨年、もう既に採択したということで、私は巻頭の持続可能な社会の実現に向けてといったところですか、最後の7章3節のところにも持続可能な社会に向けてとか、歴史に学び未来へと生かそうという考えが示されていて、歴史を学ぶという意義を子どもたちが捉えやすいというのがとてもいいなというふうに思っています。

コラムもたくさんありますし、「みんなでチャレンジ」とか、「見方・考え方」、それから「まとめの活動」などといったページも、ICTでの調べ学習につなげやすかったり、グループでの話し合い活動などにもそのまま使えるようなところがたくさんあっていいなと思います。

こういった自分でよく調べたりというのはやはり情報リテラシーにもつながりますし、話し合う中で違う意見の子たちもいるんだなというところで多様性を感じられるというところも大変いいところかなと思っております。以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

小林委員。

○小林委員 私は昨年の教科書採択のときに東京書籍のほうはじっくり見せていただきまして、今回、自由社のほうを中心に読ませていただきました。読んだ後の感想としては、「歴史って面白いな」と改めて感じさせられました。勉強というよりも、本当にストーリーを読んでいるような感じがしました。それは多分、本文以外に「歴史の言葉」「外の目から見た日本」「知っ得ポイント!」「もっと知りたい」「人物クローズアップ」などのバラエティーに富んだコラムがたくさん載っていたからじゃないかなというふうに思います。

ただ、私は大人でいろんな経験をしているんな情報もインプットされていますので、だからそれを読むと面白いと感じるのかもしれませんが。小学校から中学校に上がってきた子どもたちがこれをそういうふうに読めるかなというのはちょっと疑問で、覚えるだけで精いっぱい、内容が豊富過ぎるのかなという気はいたします。これは教科書の問題ではないと思いますが。

あとは、調べ学習、それから復習問題、時代の特徴を考える、対話とまとめ図のページとか、いろいろ工夫を凝らされていて、自ら学ぶというような仕組みはふんだんに盛り込まれているなというふうに思いました。

内容的には、たまにちょっと表現が露骨かなとか激しいかなというところもあります。あとは、重さなんですけれども、ページ数としては東京書籍も300弱で自由社が300なので同じぐらいなんですけれども、量ってみたら50グラム自由社が重くて、手に持っただ

けでも重いなど感じるので、子どもたちが学校に持っていったりするのは大変かなという気がします。

それで、一番気になったのは、ネットとの関連、ICTの関連がないことです。多くの部分はQRコードでアクセスすれば見られるというふうになるとこの重さも軽減できるんじゃないかなと思います。しかも、もう、子どもたち全員にタブレットが配付されていますので、これからはそういう教科書になっていかないと、せっかくのタブレットも無駄になってしまふかなというふうに思いますので、そこもちょっと残念なところ、ネットとのつながりが無いというところは大変残念に思いました。以上です。

○小町教育長 私からも若干述べさせていただければと思います。

教科書選定に当たりましては、昨年、議論を固めた中で、やはり立川の子どもたちにとっていい教科書というのを選ぼうというのが基本でございます。もう一つは、先生方です。公立校の先生として教えやすいという教科書を選ぼうじゃないかと。その2つを基本的な選定するときの視点として私は常に物差しとして置くということで、前回、選ばせていただいたわけでございます。

そういう物差しで考えると、自由社に関しましては、確かに委員の皆さま方ご指摘のとおり、読み物としての面白さはあるんですけども、やはり教科書は主たる教材でございますので学びの中心をなすものでありますので、そこにボリュームがあり過ぎると、公立校の子どもたち、さまざまな子どもたちが地域ということで集まってきておりますので、ちょっと消化不良に陥る部分があるのではないかなというのが一点でございます。

それから、先生方にとっても教科書はやっぱり基本的な知識、技能を教えるという姿勢がございまして、教えるものが多過ぎるということで先生方にとってもちょっと扱いづらいところがあるのではないかなというふうに私も考えたところでございます。

教科書というのは何のためにあるかということを考えると、やはり子どもたち、それからそれを導く先生方、それを中心に据えて採択を行っていただければというふうに私も考えているところでございます。

本日は協議でございますので、意見をおのおのの委員から私を含めて表明させていただきまして、次回、また協議、それから最終的には議案にして採択という流れをとりたいというふうに思いますので、今日の段階は協議ということで、それぞれの視点を＝聞かせて＝いただいて、そのそれぞれの視点をまた踏まえて次回、協議、採択という形で段取っていきたいというふうに思っています。それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 では、そのようにさせていただきます。

ほか、ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。

それでは、今申し上げたとおり、次回に採択に向けてもう一度協議の場もございまして、

今日、各委員から出たご意見なんかも参考にしながら、また協議していただいた上で採択に向けて次回、決定したいというふうに思っていますのでよろしくお願ひいたします。

これを持ちまして、2 協議の (1) 立川市立中学校使用教科用図書（歴史的分野）の採択についての協議を終わります。

◎報 告

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

○小町教育長 続きまして、3 報告の (1) 新型コロナウイルス感染症の対応についてを議題といたします。

小林教育総務課長、説明をお願いいたします。

○小林教育総務課長 それでは、新型コロナウイルス感染症の対応についてご報告いたします。

1 の立川市新型コロナウイルス感染症対策本部の開催状況でございます。

令和3年8月2日以降では、第66回を開催してございます。第66回は8月2日月曜日午後4時から開催しまして、4つの事項、市内の感染状況等について、緊急事態宣言下における対応について、新型コロナウイルスワクチン接種事業について、たちかわ楽市2021の開催中止について、こちらの4件につきまして対応等を検討、決定したところでございます。

まず、5ページをご覧ください。市内の感染状況等についてでございます。別紙1の資料です。

8月1日までのコロナウイルス感染症患者の市内の発生状況の報告がありました。新たな患者数ですが、ニュース等でも非常に増えている状況でございまして、市内におきましても7月29日から30人以上の人数となっております。

続きまして、17ページをご覧ください。と思ひます。

2点目の緊急事態宣言下における対応についてです。緊急事態宣言の延長が決定されたことを受けまして、東京都における緊急事態措置等に基づき8月31日までの期間、こちらの17ページにございます公共施設等の利用制限ですとか、教育委員会の対応などについて、現在の対応を延長して対応することを決定したところでございます。

続きまして、次のページの18ページ、19ページをご覧ください。と思ひます。

3点目は、新型コロナウイルスワクチン接種事業について、接種状況ですとか、今後のワクチンの接種対応スケジュール等について決定等を行ったところでございます。

主な確認、決定事項としては、18ページの中段の(2)の接種券の発送および予約開始についてですが、こちらの表の8番と9番、30歳以上40歳未満の方、こちらが8月10日火曜日の午後1時から受付開始。表の10番、19歳以上30歳未満の方が8月13日金曜日の午後1時から受付開始の予定となっております。こちらで、立川市内におきましては全ての年齢の方の予約が開始されるというような形になってございます。

続きまして、19ページをご覧ください。3番の集団接種の追加実施でございまして。こちらは、まず(1)の19歳以上向けの方を対象に、8月23日月曜日から9月下旬までの平日の夜

間に女性総合センター、健康会館等において集団接種を行うのと、また(2)の12歳以上19歳未満の方を対象に、8月21日土曜日と9月18日土曜日に健康会館において、接種相談にも応じた集団接種を行うことを決定したところでございます。受付開始は、8月10日火曜日の午後1時からとなります。

続きまして、資料はございませんが、11月6日、7日に開催を予定しておりましたたちかわ楽市2021について、感染拡大防止の観点から、実行委員会において開催の中止を決定したとの報告があったところでございます。

続きまして、20ページ以降をご覧くださいと思います。こちらはコロナウイルス感染症患者の発生についてでございます。令和3年7月21日以降に小・中学校において感染者が発生したというところで公表した内容になります。

日にち別にいきますと、7月28日水曜日に小学校の児童が1名、7月29日木曜日、小学校の児童3名、中学校の生徒が2名、7月30日金曜日、小学校の児童が1名、中学校の生徒が2名、7月31日土曜日、小学校の児童が1名、8月1日日曜日、中学校の生徒が1名ということで、合計しますと小学校の児童が6名、中学校の生徒が5名、合計で11名の新型コロナウイルス感染症患者が発生しているような状況でございます。

いずれも夏休み期間中での感染ですので、臨時休業の対応は行っておりません。報告は以上でございます。

○小町教育長 報告、ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

伊藤委員。

○伊藤委員 ご説明ありがとうございます。本当に小さな子どもたちが感染しているというのは憂慮するところではございますけれども、症状的に何か重い症状になったり搬送されたりとか、そういうことがあるかどうか、もし分かれば教えていただきたいと思います。

○小町教育長 前田指導課長。

○前田指導課長 報告を受けております児童・生徒に関しまして、症状が重症化している、そういう報告は受けていないところでございます。以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

嶋田委員。

○嶋田委員 ご説明ありがとうございます。12歳以上の子どももワクチンを受けられるようになってきたということで、やはりこれからはワクチンを受けた、受けていないということはいじめなどが起きないようにということも学校では注意していただかなければいけないのかなというふうに思っています。

子どもの場合は、ワクチンを受けるほうがリスクが高いと考える保護者ですとか、実際にアレルギーなどの体質で受けないほうがいいと判断される家庭もあると思いますので、ご配慮のほうをお願いしたいと思います。

○小町教育長 前田指導課長。

○**前田指導課長** ありがとうございます。ご心配いただいている内容はごもっともかなというふうに考えてございまして、これまでも子どもたちが陽性反応が出たことによっていじめに遭わないように、学校だけではなくて、保護者の皆さま、地域の皆さまのご協力をいただきながらそういった差別をなくそうということに取り組んでまいりましたが、そういったことを前提として、ワクチン接種を受けていないということがいじめや差別につながらないように、そういった視点も新たに加えながら、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう努めてまいりたいというふうに思います。以上です。

○**小町教育長** ほか、ございますか。

伊藤委員。

○**伊藤委員** 1つ忘れてしまいました。ここにも書いてあります職域接種ということで、やっぱりお年寄りに接する方々とか、それから子どもたちに接する職員であるとか、そういう方の接種をしていただいたのはありがたく思っておりますし、それから19歳向けのところでは、夜間の接種、なかなか行きにくいところもありますのでそのような配慮もして下さった市のほうに感謝するとともに、また医師会等にも感謝したいと思っております。以上でございます。

○**小町教育長** ほか、ございますか。

小林委員。

○**小林委員** 全年齢での予約が開始できるということで、大変立川市はすごいなと思います。予約するときに、やはり私のときはかなり前だったんですが、かなり苦労しましたけれども、その予約のときの状況はどのようになるのでしょうか。何か進んだことがあるのでしょうか。

○**小町教育長** 大野教育部長。

○**大野教育部長** 感染症対策本部のときの担当課の説明では、いつときは結構空きが出たということがありました。でも、2回目が入ってくるとやっぱり混んでくるというようなことです。けれども当初あったような、ああいう混雑具合ではないということで、ここにもありますように、集団接種をやったり職域接種をやったりということで、それでそういう分散をしているというふうに聞いているところでございます。

また、コールセンターを設置しているんですけども、そちらについても私はついこの間、健康会館に行ってちょっと見たんですけども、ひっきりなしに入るというような状態ではなくて、空いてる電話もあるような状態になっていました。以上です。

○**小町教育長** よろしいですか。では、私からも述べさせていただければというふうに思います。

ワクチンがコロナに関しては有効であるということは、高齢者の数が極端に減ってきているというのが多分そこに表れているからというふうに思っています。

子どもたちも夏休み中に接種が終わるよというということで、個別接種の他に集団接種も医師会の取り組みによって行っていただけるということで、大変ありがたいというふうに思っております。

もちろん希望制でございますし、体質等もございますので、保護者同伴でしっかりと相談した上で打つということは大前提でありますけれども、コロナウイルスに対抗するにはやっぱりワクチンというのが大きな決め手になってくるのかなというふうに思っています。

それに当たりましては、先ほど伊藤委員からも医師会の皆さんというお話がございました。自分の診療が終わってから、また夕方から夜にかけて駆け付けていただいて接種をしていたり、本当に献身的な取組を行っていただいております。これが立川市の一つの特徴になっているかなというふうに思いますし、他の市に比べても接種率が高いというところがございます。そうやって行政だけではなくて、医師会を含めて連携がうまくいっている証左かなというふうに私は改めて医師会の皆さま方に感謝を申し上げるところでございます。

ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。

これで、3報告の(1)新型コロナウイルス感染症の対応についての報告および質疑を終了いたします。

続きまして、その他に入ります。

○小町教育長 その他はないようでございます。

◎閉会の辞

○小町教育長 それでは、次回の日程を確認いたします。次回、第16回教育委員会定例会は、8月26日木曜日午後1時半から302会議室で開催をいたします。

これをもちまして、令和3年第15回立川市教育委員会定例会を終了いたします。どうもありがとうございました。

午後3時32分

署名委員

.....

教育長